

新型インフル

入試実施に難問

入試シーズン本番を控え、大学や中学・高校が流行拡大が懸念される新型インフルエンザへの対応に苦慮している。文部科学省は大量の欠席者が出る事態に備えセンター試験の追試日程を遅らせることなどを決めたが、追試を行っていない私大などは会場確保や問題作成がネックに。感染した児童・生徒が受験する可能性もあり「流行が広がったらどうすればいいか……」と頭を抱えている。

「何らかの対応は検討はしたいが、追試験という形は難しい」。全国から毎年約12万人の受験生が集まり12日間にわたって入試を行う早稲田大の担当者は頭を抱える。新型インフルエンザは季節性に比べて感染力が強くと、10代以下で感染が拡

学習塾も感染予防に余念がない。「感染が拡大する冬に向けてできる限りの対応をと

感染防止のため、生徒や教職員の手指の消毒を行っている学習塾(東京都豊島区TOMAS池袋校)



私大「追試できぬ」 問題・会場、「間に合わない」

大している。このため試験日前後に大流行している、欠席者が大量になる恐れもある。

ただ追試を行う場合、新たに日数分の入試問題を作成する必要もある。本番まで4カ月余りとな

った今の段階では「時間的に極めて厳しい」。学部や学科ごとに行うため、追試の日が他学部の入試日程と重なってしまう可能性もある。

全国から多数の受験者が集まる都市部の大手私大では、大学のキャンパスだけでなく、地方に出

向いての入試も行っている。札幌から鹿児島まで全国17都市で入試を実施する同志社大は「全国で同規模の追試を実施するのは物理的に不可能」という。会場に加え監督員の確保も容易ではない。

東京都は都立高入試について都教委と福祉保健局などで対応を協議中だ。2003年に海外で重症急性呼吸器症候群(SARS)が流行した際には、補欠募集と時期が重なり、感染地域からの帰国者に追試を行うなどの対応を決めたが「新型インフルの場合、感染者数も多いとみられ、同様の対応をとれるかどうか(都教委)と困惑する。神奈川県は感染している受験者がいたら「医師の許可があれば別室で受けさせる方針」といい、季節性インフルエンザの感染者と同じ扱いをするという。

私立の中学や高校は対応が分かれる。ラ・サール中学・高校(鹿児島市)は感染者だけを対象にした追試を行うか検討中。谷口哲生副校長(62)は「欠席者が多ければ受験

日の約1週間後に追試を行うことも考える」と話す。一方、開成中学・高校(東京都荒川区)は流行が拡大しても日程変更や追試は行わない方針。ただ根橋敏郎教頭(56)は「感染した受験生に『来ないで』とは言いがたい」。受験するかどうかが

学習塾も予防徹底

から全校にウイルス除去機能付きの空気清浄機と検温器を設置。感染が拡大し塾「TOMAS」などを運

感染拡大も授業ネット

営するリソー教育(東京都豊島区)も、施設の入り口に消毒液を置き、生徒や職員に手指の消毒を徹底してもらったほか、全校に計250台の空気清浄機を設置。「ホテルで模試などを行う際にも持ち込む」(経営本部)という。